

題材名「炎上、男たちは飛び込んだ ホテルニュージャパン・伝説の消防士たち 」

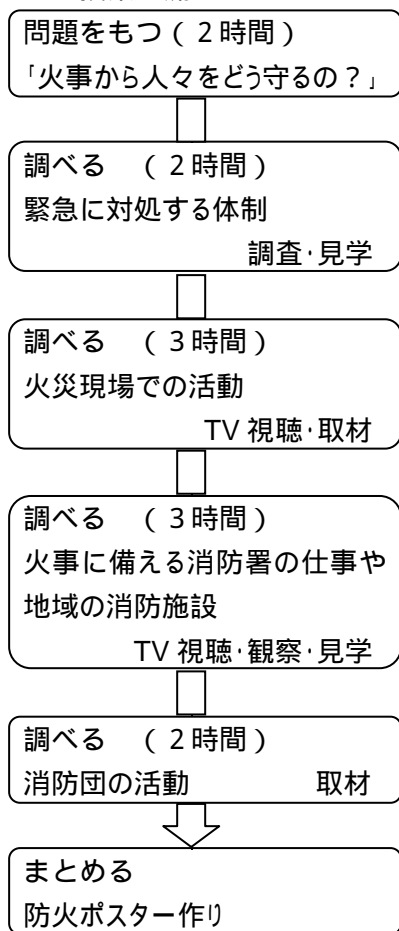
目 標

火事から人々の安全を守る活動に関心を持ち、消防署を中心とした緊急に対処する体制、火災現場での活動、火事に備える消防署の仕事や地域の消防施設、消防団の活動などについて、見学や調査、TV 視聴などを通して調べ、人々の安全を守る関係諸機関の働きと人々の工夫や努力を考えるようにする。

コンピュータを活用する利点

本単元での調べる活動は、見学・調査・観察・取材など多様な学習活動によって展開される。しかしながら、本小単元内の「火災現場での活動」は取材など一面的な知識習得がなされやすい内容項目である。そこで、『プロジェクトX』を教材とすることで、児童に共感的に火災現場での消防士の活動を理解させることを目的とした。その際にはパソコンとプロジェクターを活用し、児童が学習を進めやすいように配慮した。パソコンとプロジェクターの使用により、立ち止まる場面を数多くとることもできる。そして、視聴を通して、人間性にまで踏み込み社会認識の形成ができるという点では大変意義深い。

授業の流れ



ICT 活用場面

指示 見開き 2 頁を開けなさい。「プロジェクトX 炎上、男たちは飛び込んだ」と書きなさい。

5 つの場面に分けて視聴すること、場面ごとに時間をとってノート整理することを伝える。赤鉛筆で「プロローグ」「パート A」といった具合にテーマごとに整理させる。

発問 このTV番組のキーワードが出てきます。そっくりそのままノートの写しておきなさい。

プロローグの場面ではTV視聴のポイントとなる大事なキーワードが提示されることを伝え、二度繰り返して視聴する。キーワードを丁寧にノートに写させる。

「昭和 57 年」「大都会」「伝説の消防士」「家族の姿」「明け暮れる訓練」「生死をかけたチームワーク」「蝶ネクタイの男」「迫りくる炎」「フラッシュオーバー」「決死の突入」

発問 分かったこと、思ったこと、ほんの少しでも気づいたことがあればノートに箇条書きにしなさい。特に、キーワードが出てきた場面は大事ですからね。では、始めます。

それぞれ場面ごとに視聴を始める。キーワードが出てきた場面では教師が助言を行い、習得が期待される知識がスムーズに理解されるように配慮する。

5 つの場面ごとの部分視聴。その都度、メモ書きをさせる。

指示 各場面のメモをポストイットに書きなさい。
それぞれのメモを色分けされたポストイットに書く。グループごとにポストイットをKJ法により整理させる。
友人と同じ気づきがあったものに注目させる。

指示 グループごとに話し合ったことを発表しなさい。
グループ毎に話し合ったことを発言させる。視聴の主眼である部分に児童の思考を集中させる。

- ・ 東京のホテルで真夜中に大きな火事起きた。
- ・ 特別救助隊は9人の命を助け出した。
- ・ はしご車では近づけなかった。
- ・ 屋上から部屋に飛び込んだ。
- ・ ひとりの命を助け出すためにがんばった。
- ・ 自分のいのちを考えずに救助した。
- ・ 勇気をもっている。
- ・ 隊長と隊員はすごい絆がある。

発問 火災現場で消防士（特別救助隊）はどんな努力をしていますか。
ひとつ書きあげた児童から、持ってこさせる（早くできた児童から板書）。また、二つ三つと考えさせる。

- ・ 様々な救急道具（ロープや空気ボンベ）を使って救助をしている。
- ・ 命がけで救助をしている。
- ・ チームになって、救助をしている。（強い絆）

指示 今日のお勉強の感想をお家でまとめておきなさい。

成果と課題

TV番組はその構成から見た場合、ニュースやドキュメンタリー、解説番組に代表される事実を客観的に伝えようとする「説明型TV番組」、主人公の目線からドラマ化し、感情移入しやすく作られた「共感的理解型TV番組」に分けられる。『プロジェクトX』は後者に属する。後者は、視聴者が物語を追体験しやすく、分かりやすいところにプラス面がある。しかしながら、番組作成者の価値観が視聴者の判断を左右する点は否めないというマイナス面がある。

ICT活用環境

使用周辺機器	パソコン・プロジェクト
使用教室	コンピュータ室、普通教室